

製品名: サイトケラチン 19 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09741**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量 | 44kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | KRT19 |
| 別名 | KRT19; Keratin; type I cytoskeletal 19; Cytokeratin-19; CK-19; Keratin-19; K19 |
| 遺伝子 ID | 3880.0 |
| SwissProt ID | P08727 |
| 免疫原 | 抗血清はヒトケラチン 19 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 231-280 |

背景

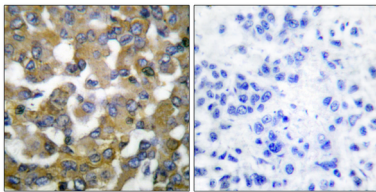
この遺伝子によってコードされるタンパク質はケラチンファミリーに属します。ケラチンは上皮細胞の構造的完全性を担う中間径フィラメントタンパク質であり、サイトケラチンと毛髪ケラチンに分類されます。I型サイトケラチンは、異型ケラチン鎖が対になっ

て配列した酸性タンパク質で構成されています。この既知の最小の酸性サイトケラチンは、類似のファミリーメンバーとは異なり、上皮細胞において塩基性サイトケラチンと対になっていません。これは、発達中の表皮を包む一時的に表面に位置する層である周皮層で特異的に発現します。I型サイトケラチンは、染色体 17q12-q21 の領域に密集しています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月]、発生段階：毛包のあらゆる発生段階に存在します。、ドメイン：このケラチンは、C 末端ドメインを欠いている点で他のすべての IF タンパク質と異なります。、機能：筋線維の組織化に関与しています。KRT8 と共に、横紋筋のコスタメアで収縮装置をジストロフィンに連結するのに役立ちます。、その他：細胞骨格ケラチンとマイクロフィブリルケラチンには、I (酸性、40~55 kDa) と II (中性~塩基性、56~70 kDa) の 2 種類があります。、類似性：中間径フィラメントファミリーに属します。、サブユニット：2 つのタイプ I ケラチンと 2 つのタイプ II ケラチンからなるヘテロ四量体です。PNN および DMD のアクチン結合ドメインと相互作用します。HCV コアタンパク質と相互作用する。、組織特異性：毛包の深部外毛根鞘にある基底ケラチノサイトの特定の領域で発現する。また、汗腺および乳腺の管状および分泌細胞、胆管、消化管、膀胱尿路上皮、口腔上皮、食道、外頸管上皮 (タンパク質レベル) にも発現が認められる。表皮基底細胞、乳頭表皮、および毛包の特定の領域にも発現する。さらに、ヒト臍帯の静脈と動脈の両方の血管壁細胞の一部、および臍帯血管平滑筋にも発現が認められる。ジストロフィンおよびスペクトリンを含む構造において、筋形質膜のコスタメアに集積する筋線維にも発現が認められる。、

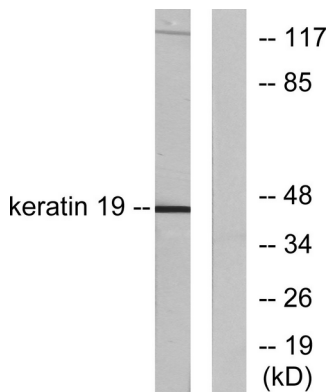
研究分野

シグナル伝達

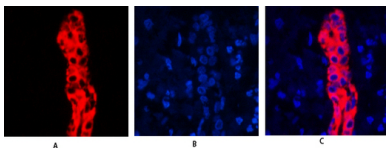
画像データ



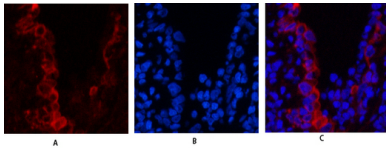
ケラチン 19 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



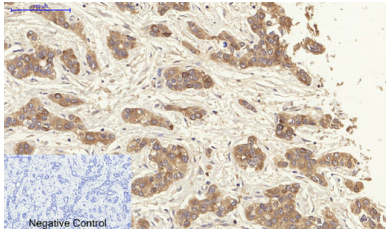
ケラチン 19 抗体を用いた LOVO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



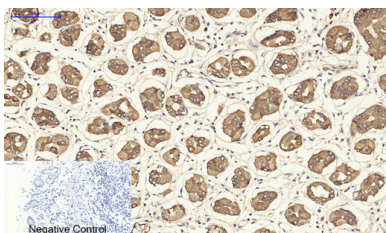
ヒト肝組織の免疫蛍光染色。1, サイトケラチン 19 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: ターゲット。写真 B: DAPI。写真 C: A+B の合成。



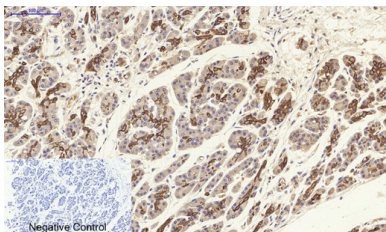
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, サイトケラチン 19 ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 写真 B: DAPI (青) 10 分。写真 A: ターゲット。写真 B: DAPI。写真 C: A+B の合成。



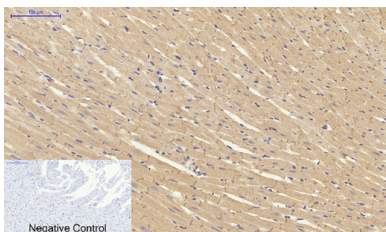
パラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。1. Cytokeratin 19 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



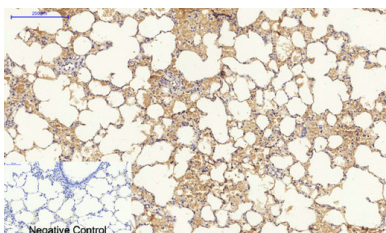
パラフィン包埋ヒト胃組織の免疫組織化学染色。1. Cytokeratin 19 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト胃癌組織の免疫組織化学染色。1. Cytokeratin 19 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット心臓組織の免疫組織化学染色。1. Cytokeratin 19 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット肺組織の免疫組織化学染色。1. Cytokeratin 19 ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。